



平成 23 年 1 月 24 日 月曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健環境研究センター内)
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（12 月月報） **NEW**
- 奈良県インフルエンザ検出状況 **NEW**
- 奈良県ノロウイルス検出状況 **NEW**



(調査週) 平成 23 年 第 2 週 1 月 10 日 (月) ~ 1 月 16 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週間からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	6.38	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	5.74	→~↓	→~↓	↓	→~↓
3	水 痘	1.31	→	→~↓	→	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.74	→~↓	→~↓	→	→
5	RS ウイルス感染症	0.49	→~↓	↓	→	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 335 例で、前週報告の 233 例から増加。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③水痘、④伝染性紅斑、⑤A 群溶連菌咽頭炎の順。インフルエンザの報告数（191 例）は、激増。感染性胃腸炎の報告数（82 例）は、やや減少。伝染性紅斑の報告数（14 例）は、横ばい。水痘の報告数（15 例）は、減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（9 例）は、やや減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内；48 例、郡山 HC 管内；143 例だった。奈良市 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が 1 例報告された。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。

(村井 記)

県北部外来状況：外来患者数は正月休み後でそれ程多くは無い。インフルエンザは徐々に増加し直近では平均毎日 3 人前後來院している。年齢は 20 才以上が多いが、徐々に低年齢へ移行傾向にある。昨年のは検体からは全て AH1pdm（新型）の報告をいただいた。迅速検査で B 型の保育園児が 1 例今週みつけた。症状は昨年同様軽症で、咳が 1-2 日してから発熱して来院とか、発熱と咳が少しで来院して検査陽性者が多い。感染性胃腸炎は今年に入り少なくなっている。症状も下痢を訴えず、腹痛と嘔気と全身筋肉痛が目立つ。水痘と RS ウイルス気管支炎が保育園の乳幼児で流行が続いている。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、217例から279例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、RSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎の順であった。感染性胃腸炎は91例と減少傾向である。インフルエンザは61例から132例と急増し、桜井保健所より54例、葛城保健所より78例の報告があった。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎3例が葛城保健所より報告があった。眼科定点からの報告はなかった。(高木 記)

県中部外来状況：外来数は増加中。先週土曜日からインフルエンザ流行の兆しがあったが今週になり一気に増加してきた。迅速ですべてA型。予防接種2回完了の児、昨年新型罹患の児の罹患例もあった。37度台の元気な子どもでも陽性の例があり、発熱と腹痛、嘔気、ノロウイルス様症状の例で陽性もあった。乳児では突発性発疹が紛れておりインフルエンザとの鑑別、隔離が難しい状況である。ノロウイルス様嘔吐の例は減少傾向。その他水痘が流行中。(岡本 記)

県南部地区概況 南和地区(第2週)報告数(第1週→第2週)は55例→73例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(20例→28例)、①インフルエンザ(9例→28例)③A群溶連菌咽頭炎(6例→8例)、③水痘(15例→8例)、⑤突発性発疹(1例→1例)。(柳生 記)

県南部外来状況：外来数は減少傾向であったが第3週からまた増加している。インフルエンザが第2週から増加し始めた。最初はA型ばかりであったが、第2週で初めてB型を認め、その小学校で市内今季初めての学級(学年)閉鎖となった。その中には毎年インフルエンザワクチン接種をしているが3年連続で、Aソ連型(タミフル無効)、新型、そして今回B型に罹患した男児があった。昨年第49週から急増したA群溶連菌咽頭炎の流行も続いており、40度の高熱例や、発熱、咽頭痛に咳、鼻水を伴ったり、咽頭痛のないもの、咽頭の赤さがあまり特徴的でないものなど様々でインフルエンザ迅速検査との選択に迷う場合も少なくない。感染性胃腸炎は少なくなったが、ロタが1例あった。水痘は少ない。流行性耳下腺炎はなかった。(山本 記)

【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（12月月報）】

平成 22 年 12 月に、定点医療機関より奈良県内の保健所に届出された月報告対象の定点把握感染症の報告数は以下の通りです。

・STD 患者数（人）

疾患名/報告月	12 月		前月（11 月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	8	0.89	6	0.67
性器ヘルペスウイルス感染症	5	0.56	4	0.44
尖圭コンジローマ	—	—	2	0.22
淋菌感染症	6	0.67	2	0.22

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名/報告月	12 月		前月（11 月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	22	3.67	22	3.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	1.83	4	0.67
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.17	—	—

（感染症情報センター 記）

奈良県インフルエンザ検出状況

平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

表. インフルエンザウイルス検出状況

(採取日別、上段: 新型、下段: 季節性)

採取週 市町村	第 51 週 まで	第 52 週 12/27~1/2	第 1 週 1/3~1/9	第 2 週 1/10~1/16	総計
北和	奈良市	88 14			88 14
	大和郡山市	12 4			12 4
	天理市	12 2			12 2
	生駒市	14 7			14 7
	平群町	1			1
	三郷町	3			3
	斑鳩町	1 2			1 2
	安堵町	1			1
	中和	橿原市	19 8		
桜井市		8 3			8 3
宇陀市		1			1
川西町		1			1
三宅町		1			1
高取町		1			1
大和高田市		5 39			5 39
御所市		2 5	1		3 5
香芝市		8 6			8 6
葛城市		4			4
上牧町		3 1			3 1
王寺町		1			1
広陵町		5 1			5 1
河合町		1 7			1 7
南和	五條市	1			1
	下市町	2 2			2 2
他	5 5			5 5	
合計	197 109	1			198 109

(平成 23 年 1 月 14 日現在)

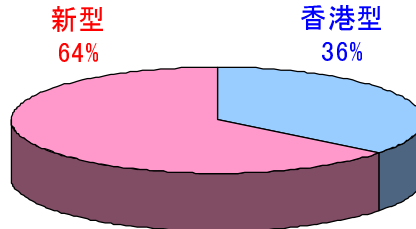


図. 平成 22 年度インフルエンザウイルスの亜型比率

全数把握は平成 22 年 12 月 25 日をもって終了しましたので、この表の第 52 週以降はおもに病原体定点からの検体の結果が反映されることとなります。今後とも病原体定点医療機関の先生方のご協力をよろしくお願いいたします。

今年に入り寒さが一段と厳しくなっています。うがい・手洗いを心がけて下さい。また栄養と睡眠を十分とり、体の免疫力を高めましょう。

☆ 患者渡航歴

	渡航歴あり	なし	不明
新型	11 [タイ(1), オーストラリア(1), 台湾(3), 中国(1), インドネシア(1), 韓国(1), 米国(1), イタリア (1)イギリス、フランス(1)]	42	145
香港型	12 [中国(接触者含む)(8), フィリピン(1), 北欧(1), カナダ(1), 渡航先不明(1)]	23	74

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

奈良県ノロウイルス検出状況

平成22年度感染症発生動向調査事業
平成22年度食品の検査による安全確認事業

- ☆ 集団感染症（検出事例数）
- GI** 4月：小学校（1）
11月：小学校（1），幼稚園（1）
- GII** 5月：小学校（1）
6月：特別養護老人施設（1）
11月：保育園（5），幼稚園（2），他（1）
12月：小学校（1），幼稚園（1），
保育園（1），他（5）
- ☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）
- GII** 5月：京都府関連（2）
7月：大阪市関連（2）
11月：他（1）
12月：老人福祉施設（1），他（1）
1月：大阪市関連（1）



図. ノロウイルス集団発生状況
(食中毒事例を含む)
○: 保育所・幼稚園、□: 小学校、△: 老人保健施設、他

1月も中旬になりましたが、今なお食中毒・集団感染症が散見されます。ノロウイルスは少ない量でも感染が成立する、感染力の強いウイルスです。感染防御のために最も大切なのは手を洗うことです。特に排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)